

### 第3回 八代市総合計画策定審議会会議録（要旨）

開催日時	平成25年2月12日（火） 午前10時～11時00分
開催場所	八代市役所5階 大会議室

#### ■ 出席者

##### 策定審議員

会長	宮川 英明	委員	福田 健二	委員	井山 九洲男
副会長	川井 健次	〃	濱 孝治		井上 篤子
委員	村山 忍	〃	松永 松喜		臼杵 壽
〃	氏原 修一	〃	満島 進		
〃	藤原 成治	〃	小寺 ヤエ子		(委員19名)

##### 地域審議会代表

地域	氏名	地域	氏名	地域	氏名
八代	徳田 武治	鏡	猿渡 光次	泉	寺田 浩
千丁	福田 輝美	東陽	後村 新一		

##### 関係機関アドバイザー

役職	氏名
国土交通省九州地方整備局熊本港湾・空港事務所 所長	(代理) 田中 功
国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所 所長	(代理) 川口 芳人
熊本県八代地域振興局 局長	(代理) 小原 雅之

#### ■ 資料

- ・第2回策定審議会での意見と回答
- ・事務局における修正一覧
- ・熊本県からの意見に対する修正一覧
- ・各地域審議会意見と回答(八代、千丁・鏡、東陽・泉・坂本)
- ・市議会(総務委員会)意見と回答

■公開状況 公開

■傍聴者数 1名

#### ■議事録

##### 【会議内容】

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 八代市総合計画後期基本計画（案）の答申について
  - (2) その他
4. 閉会

## 【発言要旨】

(会長)

それでは、答申案を審議いただく前に、配布資料1～5について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

配布資料1～5に基づき説明。

## 【質疑・応答】

(委員)

前回検討した内容を報告してもらったが、一人ひとりの意見を大切に受け止め、対応してもらっていることに感服した。報告の中に誠意を感じた。これ以上の検討はないと思うが、今後が問題である。どのように、何を、いつ、どこで執り行って行くかが問題である。いい計画案がいい行動をもたらしていくだろうと思う。

質問だが、特別支援員の数については過去の実例を踏まえて記述されていると思う。この数字の中には言語聴覚士が入っているのか、どのように考えているのか教えてほしい。

(会長)

2番目についての質問ですね。

(事務局)

言語聴覚士が含まれるかは確認して報告したい。

(委員)

市内の言語聴覚士は少ないが、必要な人材としてどう活用するかが問題であり、質問した。

(教育部長)

特別支援員の中には言語聴覚士は入っていない。意見を持ち帰り、今後教育の現場でどのように活かしていくかを検討したい。

(会長)

八代だけではなく、海外に比べ日本全体で障がい者を支援する取組みは遅れている。それぞれのところで新たなサポートができる体制をつくっていくことが大事である。

(委員)

資料4の八代地域審議会の5番目に「評価」ということばがでていいる。鏡地域審議会の意見の3番目の「各目標についての検証」がある、泉地域審議会の2番目にも「検証」ということばがでていいる。資料5の市議会の6番に「施策の評価」ということばがでていいるが、これらは同じ方向性をもっているが、回答については、鏡の場合、「基本的には市が取り組んでいる行政評価の中で検証作業を行っていく形になる。個別事業の検証は担当部署にて行うが、評価については全庁的に検証を行っていく。」と書いてある。各審議会、市議会もそうだが、計画がその後どうなったかを、「全庁的に取り組む」とは真剣だと伺える反面、抽象的な取り組みではないか、個別的な検証を明確にすべきではないか。そうでないと審議した結果の反映としては不十分ではないかと思う。委員や事務局の意見を聞きたい。

(会長)

評価については具体的にはどうなっているかについての取組みはどうかということだが。

(委員)

評価においては、評価しやすい具体策が起点にくると思う。評価がわかりにくいとは、評価しにくい具体案ではなかったということではないかと思う。

(会長)

数値目標が出ているところは、それに対してどうだったということ是可以するが、抽象的な表現だと難

しいということだと思う。評価については行政評価のなかで検証作業を行うことが一つ、それから個別事業については各担当課で行い、それを積み上げながら、評価のときは全庁的に検証を行うということだと思う。ただ、それをどう公表し、つぎに年度年度で活かしていくかということだと思う。

(事務局)

評価については、後期基本計画の策定の基本方針の中で、評価に結びつく計画をつくることを前提にした。それを踏まえて重点プロジェクトから重点施策へ変えた。

事務事業評価については、来年度から全事務事業を対象にすることになっているし、予算編成においてはすべての事務事業については体系に割り振られている。平成 26 年度の評価から、後期基本計画に基づく評価をお示しできる。

(委員)

一般社会、企業では数字、成果主義を求めているが、行政は一生懸命さが評価だと考えている。

(会長)

成果よりも姿勢を求めるとということだと思う。

(委員)

評価は必要である。だれがどういう形で評価するのか。外部評価はあるのか。評価のしくみは。

(事務局)

来年度からすべての事務事業は内部の自己評価を行い、その後外部評価を受けることにしている。

(会長)

基本的には担当部署で評価を行い、その後外部評価をされるということによろしいか。

事務局で細かく時間をかけて検討してもらっている。意見がなければ、答申案について具体的な話をしたい。

(事務局)

答申案に基づき説明。

(川口)

P1の「1」の「○個別事業への対応にかかる意見」の中の球磨川堤防は「球磨川堤防側帯等への」といった表現に修正してほしい。

(委員)

これは了解済である。表現の仕方ということの話であると思う。

(会長)

前回、意見をいただき了解した上でのものであるが、ことばとして残るので、側帯等をつけることでいいか。

(事務局)

答申は1枚目のみであり、P1からは付帯意見の説明資料としてみてほしい。

(会長)

これも残す可能性はあるので、「球磨川堤防側帯等への桜の植樹」という形で訂正してほしい。

答申案については了承することいいか。後日、市長の方へ答申する。

## (2) その他

(事務局)

2/19に会長から市長へ答申する。そのあと、3月議会の総務委員会に報告し、並行して印刷に入る。印刷後、各委員に配布する。

※企画戦略部次長あいさつ

4. 閉会